



新たな公共交通体系の構築を目指す 「渋川市地域公共交通計画」

渋川市 建設交通部 交通政策課

渋川市では、少子高齢化と人口減少が年々進行するなか、自動車に依存した生活スタイルの定着から公共交通の利用者は年々減少しており、市民の暮らしを支える移動手段のサービスの低下が危惧されています。また、高齢者が加害者や被害者になる交通事故や運転免許証の自主返納件数は増加傾向にあり、受け皿となる移動手段の確保が本市の喫緊の課題となっています。

こうした状況を踏まえ、今後の社会情勢の変化や既に顕在化している課題を解決するために、基本的な方向性や公共交通の将来像、具体的な施策を示した「渋川市地域公共交通計画」を令和3年3月に策定しました。

■ 渋川市の公共交通の現状

市町村乗合バスの利用客数は5年間で約1万人減少しており、アンケートでも市民の約80%がバスをまったく利用しないと回答しています。その一方、バスの運行を維持するためには多額の経費が掛かり、市町村乗合バスや通学バスの運行には、毎年約3億円の経費が必要となっています。また、JR渋川駅の利用者数は緩やかに減少しており、市内の8駅中、6駅が無人駅となっている状態です。

(アンケートで寄せられた市民の声)

- ・「自動車がないと仕事や生活ができない」ので、免許は返納できない。
- ・炎天下や雨の時にバス停で待つのはつらいので、屋根をつけてほしい。
- ・路線バスの情報が分かりにくいので、見やすい路線図やホームページを作ってほしい。
- ・「運行本数の増便」や「経路の見直し」でバスは使いやすくなる。
- ・運転免許を持たない人のために、医療機関や買物の送迎が必要。
- ・電車と比べてバスの料金が高く感じるので、バスに乗ろうと思わない。
- ・交通系ICカードを利用できるようにしてほしい。

■ 渋川市が目指す公共交通の将来像

このような現状を分析し、公共交通をより良くするための課題を整理し、課題解決のための方向性、公共交通の果たすべき役割を踏まえ、渋川市が目指す公共交通の将来像を次のとおり設定しました。

「人をつなぎ、地域を結び、暮らしを支える～みんなで育む渋川の公共交通～」

鉄道及び路線バスを本市の拠点間を結ぶ幹線軸とし、バスやタクシーをはじめ、さまざまな移動手段を活用した地域内交通と連携することにより、地域の実態や住民生活に即した利用しやすい持続可能な公共交通ネットワークを構築するため、この将来像を目指した取り組みを推進します。

～人をつなぐ～

市民交流の活性化や健康の増進を図るとともに、観光客の移動の利便性や回遊性を向上させ、交流人口の増加に寄与する公共交通を目指します

～地域を結び～

中心拠点や生活拠点等のまちのまとまりの実現に向けて、拠点間を結び、拠点と居住エリアを結び、コンパクトプラスネットワークによる公共交通を目指します

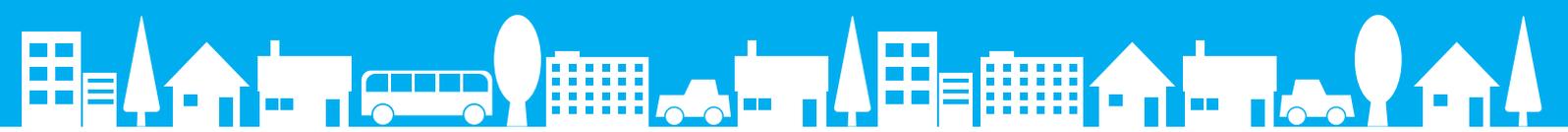
～暮らしを支える～

高齢者や障害者、学生等が自動車を運転できなくても、安全かつ安心して利用できる移動手段となり、市民の暮らしを支える公共交通を目指します

～みんなで育む～

住みやすく活力に満ちた渋川市の実現に向けて、行政、交通事業者をはじめ、市民、地域、企業がそれぞれの役割を担い、相互に連携し、一体となって公共交通の再編に取り組み、将来にわたり地域を支える公共交通を育んでいきます

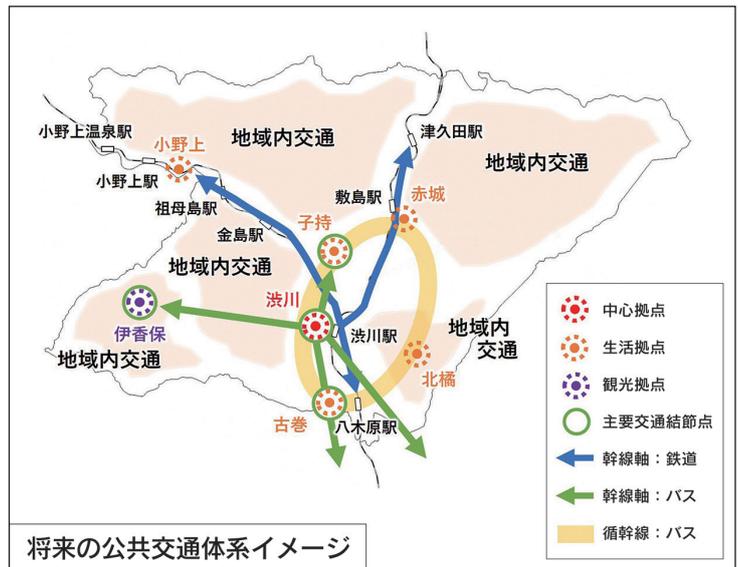




■ 渋川市の公共交通の将来像のイメージ

右の図は、総合計画や都市計画マスタープラン等に掲げる将来都市構造と、公共交通に関する課題を踏まえた、本計画の目指す公共交通体系のイメージです。

- (1) 市内の主要な拠点を結ぶバス路線や鉄道路線のサービスレベルを維持する(写真①)
- (2) 今年開業100周年を迎えるJR渋川駅や八木原駅等の鉄道駅や伊香保温泉などの観光拠点を交通の結節点とし、バスと鉄道の連携を強化する(写真②)
- (3) 既存のバス路線では網羅できない地域の移動手段を確保する
- (4) 行政センターを中心とする生活拠点と、主要な病院やスーパーを經由する循環線の導入を検討する



■ 具体的な取り組み

(1) 公共交通ネットワークの構築

幹線軸維持や地域内交通・市内循環線の導入の他、路線バスと通学バスの連携、予約型バス(デマンドバス)の試行運行に取り組みます(現在実施中)(写真③)

(2) 公共交通の利用環境の充実

バス停留所の待合環境の整備、交通拠点における乗り継ぎ情報の提供、公共交通のバリアフリー化、交通系ICカードの導入等に取り組みます

(3) 公共交通の利用促進

バスマップ等の情報発信の充実、高齢者の免許返納率の向上につながる施策の検討、バス・鉄道・タクシーの利用促進イベントやキャンペーン企画の実施に取り組みます(写真④⑤)



①伊香保温泉街と水沢地区を巡回するタウンバス



②整備計画が進むJR八木原駅

■ 計画期間

令和3年度～令和7年度(5カ年)

■ 計画の推進

本計画に掲げる達成状況を毎年度評価し、施策の改善に活用することで、効率的に事業を進めていきます。また、利用者や交通事業者等と広く意見交換を行いながら、渋川市にふさわしい新たな公共交通体系の構築を推進します。



③予約型バス(試行)出発式



④運転免許証を持たない高齢者が利用できるタクシー券



⑤公共交通と連携したアニメツーリズム事業

